

東日本大震災とNGO

いざ被災地へ“国内”支援に挑む

2011年3月11日14時46分、M(マグニチュード)9.0の巨大地震が東日本を襲った。その直後に発生した津波は、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。建物は破壊され、水道・ガスなどのライフラインが遮断された。福島では原子力発電所の事故が起こり、今なお解決の目処がたっていない。死者・行方不明者は2万人を超え、11万人以上の人々が避難生活を強いられている。戦後最大の災害に日本の国際協力NGOが動いた。

P7の図を見てほしい。これは、NGOの被災地での支援活動を時間軸で表したものだ。災害支援活動には4つのステージがあると言われてる。今回の震災で、震災発生後72時間までに人命救助を行う「救命期」には、緊急救援を専門とするAMDA、シビックフォース、ピースウィンズ・ジャパンなどが被災地に入った。国際協力NGOセンターは、こうした緊急支援を行うNGOへの寄付金を集めるため「緊急支援まとめ

て募金」を立ち上げた。次の「緊急期」には、JENやワールド・ビジョン・ジャパンなど多くのNGOが物資配布や炊き出しを行い、またシャンティア国際ボランティア会(SVA)やピースボートは、一般ボランティアの受入・調整を行う災害対策ボランティアセンターの立ち上げを支援した。震災発生から1週間で、活動するNGOはあわせて19団体にのぼった。なぜ国際協力を専門とするNGOが国内支援にすばやく動いたのか。

4月14日〜15日にかけて宮城県石巻市、気仙沼市で活動するNGOを訪問した。まず石巻市では、ピースボートが地元と丁寧に関係を作り、多くのボランティアの派遣・受入を行っていた。ボランティアの宿泊スペースもなっている大学のキャンパスでは、炊き出しの準備が行われていた。復旧期に入るためにはまだまだ作業を行うボランティアが必要で、そのための環境作りに着手しているという。

(JANIC 調べ)

災害支援活動の4つのステージ

救命期	緊急期	復旧期	復興期
震災発生	72時間	1週間	2カ月 半年
AMDA 国境なき医師団日本 シビックフォース 難民を助ける会 ピースウィンズ・ジャパン	ADRA Japan オイスカ グッドネバーズ・ジャパン ケア・インターナショナル 東北広域震災NGOセンター 国境なき子どもたち シェア=国際保健協力市民の会 JEN シャンティア国際ボランティア会 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン チャイルド・ファンド・ジャパン 難民支援協会 ピースボート ワールド・ビジョン・ジャパン	ACE ICA 文化事業協会 アジア協会アジア友の会 アジア日本相互交流センター ICAN 幼い難民を考える会 オックスファム・ジャパン 国際開発救援財団 JHP・学校をつくる会 シャプラニール=市民による海外協力の会 ジョイセフ(家族計画国際奉仕財団) 地球の友と歩む会/LIFE 日本キリスト教海外医療協力会 日本国際ボランティアセンター ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン パレスチナ子どものキャンペーン プラン・ジャパン ブリッジ エーシア メドゥサン・デュ・モンド ジャポン(世界の医療団)	

東日本大震災でのNGOの活動開始時期

被災地に近い山形の東北広域震災NGOセンター(事務局 国際ボランティアセンター山形IVY)は、ボランティアが行う作業を、地元の住民に、仕事として提供するプロジェクトを始めようとしていた。「復興支援の主役は地元の人たち」という言葉が印象的だった。気仙沼市では、SVAが県・市、社会福祉協議会、地元NPO、自衛隊、NGOのつなぎ役となりながら、災害ボランティアセンターの運営サポートを実施していた。石巻よりも復興が遅れている気仙沼は、ボランティアの参加はこれからが本番だ。

被害が甚大で、従来の災害支援の定説があてはまらない被災地で、それぞれの理念のもと、活動を展開しているNGOの活躍を特集した。

(本誌 渡辺李依)